

吹奏太郎



FlowerPark



Kurita
Bijyutukan



Ashikaga



AshikagaGakko



TuTuji



はじめに

新型コロナウイルス感染症による各大会の中止等、栃木県吹奏楽連盟も大きな影響を受け、連盟主催の行事は10月まで中止となっています。各団体におかれましても、様々な面に対応に苦慮されていることと思います。

令和2年度広報誌1号を発行するにあたり、通常とは紙面構成を変更し、各団体の活動を紹介することとしました。多くの制約がある現状でも工夫を凝らして、吹奏楽の取り組みが行われるようになってきています。連盟主催ではありませんが、それらの活動に参加した団体に、吹奏楽への思いや取り組みの工夫などを執筆していただきました。



目 次

★ 巻頭言	1
「令和2年度（2020年）コロナウイルス禍の中での吹奏楽部」 栃木県吹奏楽連盟理事長	石塚 武男
★ 1. みんなで「栄冠は君に輝く」に参加しての感想	2
宇都宮市立宮の原中学校 宇都宮北高吹奏楽部 OBOG バンド	
★ 2. CRT 栃木放送「歌のない歌謡曲」「クラシックガーデン」に参加しての感想	3
栃木県立宇都宮中央女子高等学校	
★ 3. 東関東優秀団体演奏会に参加しての感想	4
令和2年9月20日（日）宇都宮市文化会館 作新学院高等学校	
★ 4. 地域・地区での行事、団体独自の活動を通しての感想	6
「昼休み サプライズ・ライブ」	那須塩原市立黒磯中学校
「芳賀地区中学校吹奏楽フェスティバル」	益子町立田野中学校
	真岡市立物部中学校
★ 編集後記	8
栃木県吹奏楽連盟広報部	沼尾 和子



「令和2年度（2020年）コロナウイルス禍の中での吹奏楽部」

栃木県吹奏楽連盟理事長 石塚 武男

今年（令和2年）は3月頃から新型コロナウイルスによる感染症の影響が各所で出始め、4月には政府から緊急事態宣言が出されました。

よって、全ての物事が止まってしまうかのように、行事の縮小、中止、延期が余儀なくされ、学校においては新学期早々臨時休校となって授業や部活動が出来ず、吹奏楽連盟も例年の活動や年間行事である吹奏楽コンクール、マーチングコンテスト等を中止せざるを得ませんでした。

日本において吹奏楽連盟が創設して約90年間、経験したことのない禍（わざわい）のために、やりたいと思う物事ができないもどかしさ感じながら過ごしているのです。

しかし、この辛さを経験し、我慢することや忍耐力を養うことも大切なことかもしれませんが、何もしないでいては、「光陰矢のごとし」時間は過ぎ去ってしまうのです。特に、青春時代は教養を身につけながら謳歌する喜びを感じて日々を過ごすことが心身ともに豊かな人間性を養うことに繋がります。

さて、吹奏楽部における活動について色々な制約のもと、それに沿った計画と準備をしなければ練習や活動ができないと思います。

- 各学校で決められている練習する日・時間・場所について守ること。
- コロナ対策である3密（密閉・密集・密接）をいかに守れるか詳しく計画を立てて校長先生の許可を頂くこと。同じ計画書を部員の親御さんにお見せすることも大切です

密閉…当然窓を開けること。音出しのときは窓を閉めても、こまめに開け換気を行うこと。

密集…多くの練習場所・廊下・野外を確保して分散練習すること。

密接…合奏の練習・隣合わせの間隔・前後の間隔を開けること。

その他にも、練習中にはフェイスシールドの着用、練習後の場所の消毒・楽器の消毒・無駄話や大声を出さない。楽器を離したら必ずマスクをする等、細心の注意が必要です。

3密を避けるための練習方法・コンサートを開催するための方法

・音楽会に参加するための心得等の基本方針について、
栃木県吹奏楽連盟・全日本吹奏楽連盟のホームページに掲載してありますので参考にしてください。

今頑張ることで、コロナ禍が収束した時には悔いのない
幸せな青春時代となって現れることでしょう。



1 みんなで「栄冠は君に輝く」に参加しての感想

2020年8月10日 午前10時10分 会場：全国各地（参加者の任意の場所）

「みんなで栄冠」によせて

本来ならば夏の甲子園の開会式が行われるはずだったこの日、例年開会式で演奏している関西の高等学校吹奏楽部・合唱部の生徒による動画に合わせて、全国で一斉に「栄冠は君に輝く」が演奏されました。幼児から高齢の方まで全国各地から多くの人々が、吹奏楽・合唱・グループ・個人・家族と様々な形、演奏可能な楽器で参加しました。

子供たちが元気になれるように

心をひとつにして、コロナに負けずにパワーを出すことができないか

宇都宮市立宮の原中学校吹奏楽部顧問、星先生のそんな願いから、このプロジェクトは始まりました。

40年近く吹奏楽に携わってきたなかで、児童生徒の心は、「一生懸命やりたい」「一つのことを完成させたい」という純粋なものであると感じてきた。同時刻に同じ曲で、どここの場所でも、日本中のみんなと一緒に演奏できないだろうか。それぞれの演奏動画を送ってリモート演奏動画を作れないか。演奏は形にとらわれずに、自分の可能な方法で参加すれば良いのであり、合奏ができる人たちは合奏で、まだ無理な状況なら家や公園の片隅など、人に迷惑をかけない場所や方法で演奏してみる。その場にいるのは自分一人だけでも実は目に見えない向こう側の大勢の人と一緒に演奏していることに気づく。日本全国で、みんなが同じ思いで演奏している。自分もその中に参加している。そんな思いで演奏できたらありがたい。

「何もできない」と考えるのではなく、このような状況の中で何かできる事を見つけ、心をひとつにして頑張っていければと思っている。意気消沈せずに色々なところでいろいろな企画を考えて頑張っていければ最高ですね。

（※朝日新聞「みんなで『栄冠は君に輝く』」より引用）

なお、この企画に関する記事や各参加者から寄せられた動画を編集したりリモート動画等は、朝日新聞「みんなで栄冠」で検索できます。 （文責 沼尾 和子）

「みんなで栄冠」

宇都宮市立宮の原中学校吹奏楽部 部長 須藤 逢

今回、「みんなで栄冠」に参加させていただけた事は、私にとっても、宮の原中学校吹奏楽部にとっても、とても貴重な経験となりました。

今年は、新型コロナウイルスの影響で、夏の醍醐味である吹奏楽コンクールや、宇都宮ジュニア芸術祭、中央祭、更には体育祭や文化祭などの学校での演奏の場もなくなってしまい、目標がない中での活動でした。そんな中でのこの「みんなで栄冠」に参加させていただくことになった時は素直に嬉しかったです。

「栄冠は君に輝く」という曲は私の中では甲子園での野球応援という印象が強く、なかなか演奏する機会はないと思っていました。なので、今回私も応援する側の一員になれると思うと、よし頑張ろう!という気持ちになりました。また、この曲の作曲家である古関裕而さんは福島出身であり、福島に祖母がいる私にはとても親近感の持てる曲でした。

本番当日、私の学校は、野球部、テニス部、サッカー部、剣道部など、多くの運動部が私たちの演奏に合わせて行進しました。本当の応援のようで、とても気持ちが盛り上がりました。そして、今回の「みんなで栄冠」は全国で同じ時間に同じ曲を演奏する、という趣旨のものなので、それも一体感があり、みんなで一緒に頑張っている、と感ずることができました。

後日、参加した人や団体の映像を観て、こんなにもたくさんの人達が演奏だけでなく、様々な形で、同じ時刻、同じ思いを抱きながら参加していたことを知りました。また、なかなか演奏しているところを見せてあげられない福島県の祖母に、この映像を見せてあげることができました。こんな状況ではありましたが、いつもなら経験できない忘れられない経験となり、みんなの素敵な思い出となりました。ありがとうございました。

「拍手とスポットライトのありがたさ」

宇都宮北高吹奏楽部 OBOG バンド

トロンボーン担当 フリーアナウンサー福嶋真理子

「卒業生は全員団員」がコンセプト、これが私たち宇都宮北高吹奏楽部 OBOG バンドです。常時集まるのは30人前後ですが、卒業後ふと「もう一度演奏したいな」と思ったとき、帰る場所でありたいという思いで活動しています。

私達も例にもれず、今年度予定していた演奏の機会がすべてキャンセルになりました。メンバーと会えない日々が続く中、高校時代の合唱部の先輩に声をかけていただき、団長の

栗又義典、同期の西澤通雄とともに、トロンボーン3人で「みんなで栄冠プロジェクト」に参加しました。

当日の朝集合し、宇都宮市内の公園で定刻に演奏。事前練習は個人練習のみでしたが、出会って約30年、息はぴったりだったと自負しています。現役時代はソロを奪い合った（!?笑）私達もすっかり丸くなり、音楽を演奏できる喜びを噛みしめる機会となりました。たった3人の拙い演奏にもかかわらず、犬の散歩に来ていたご近所の方が、演奏後に拍手をしてくださりました。奏者にとって、拍手とスポットライトがいかにありがたく嬉しいものかを改めて感じましたし、演奏後の充実感を久しぶりに味わうことができました。

私が、コンクールで出場団体を紹介するアナウンスを担当して約20年が経ちます。ステージ袖から見ていると、笑顔になり、パワーをもらい、時に涙ぐみ、昔の自分を思い出したりして、その都度、吹奏楽を続けてきて良かったと感じます。卒業後、保護者として打楽器運びをしていたり、教員になり指揮者としてステージに戻ってきた方がいたり、そんな皆さんが声をかけてくださるのも本当に嬉しいものですが、今年はそれを感じることができず寂しい思いでした。

すべてが例年と異なる今年、時間だけが無情に過ぎたこともあるかもしれませんが、でも、どんな形であれ音楽を続けていることで、学び得るものがあると信じています。少しでも皆さんのお役に立てるよう、これからも「アナウンサー時々奏者」として吹奏楽に関わっていきたいと思います。



2 CRT 栃木放送「クラシックガーデン」に参加しての感想

栃木県立宇都宮中央女子高等学校吹奏楽部 部長 3年 中野 ゆりあ

「プログラム1番、県立宇都宮中央女子高等学校」ステージの上で聞くはずだったこのアナウンスがラジオから流れてきた瞬間、胸が熱くなりました。数々のイベントが中止になり、どこにも向けようのない悔しさや喪失感が拭えない中、ラジオでの演奏の機会を頂けたことで私たちは再び前を向くことができました。収録中、当たり前のように合奏ができていたことの幸せを強く感じ、自分にとって吹奏楽が、仲間との時間が、いかにかけがえのないものなのか再認識しました。ラジオ放送は、このメンバーで演奏できた1カ月弱の短くも濃密な時間の証となりました。私たちの想いを理解し支えてくださった方々に、心から感謝致します。

栃木県立宇都宮中央女子高等学校吹奏楽部 副部長 3年 小林 薫

今回のラジオ演奏が、私達3年生の宇中女吹奏楽部としての最終目標、そして、部員みんなで新顧問西垣先生の指揮で出られる最初で最後の舞台になるとは、誰も考えもしなかったでしょう。私達が日常じゃない日常を受け入れるには、沢山の時間と涙と話し合いが必要となりました。しかし、その分私達が学んだあたりまえにある幸せを噛み締めながら、大切な仲間と残り少ない時間を共に過ごせたこと、このような経験をした私達だからこそできる演奏をラジオを通して皆様にお届けできたこと、とても嬉しく、誇りに思います。支えてくださったすべての方々、本当にありがとうございました。

栃木県立宇都宮中央女子高等学校吹奏楽部 副部長 3年 石原 心路

様々なイベントが中止になり、穴のあいてしまった我々の心に、一筋の光を齎したのが、今回のラジオ番組への出演でした。周囲の個性豊かな仲間やその音から離れた3ヶ月。同志と共に音楽をする事がどれだけ自分の心の支えになっていたのかを実感しました。そして久しぶりに全員で合奏ができた時の、何物にも例える事のできない喜びは、決して忘れる事はないでしょう。部活再開から1ヶ月で迎えた最後の演奏。この1ヶ月は経験した事のない程に密度の濃いものでした。6月28日、この機運の成熟した良日に録音会を行えた事。関わって下さった全ての方々に心から感謝致します。

3 東関東優秀団体演奏会に参加しての感想

令和2年9月20日(日) 会場：宇都宮市文化会館

「東関東優秀団体演奏会に出演して」

作新学院高等学校吹奏楽部 副部長 3年 長谷川 咲知子

3月の自粛期間から今日までの6か月間、新型コロナウイルスの影響で1番の目標としてきたコンクールや予定していた数多くの行事が次々と無くなり、言葉にできない程の悔しさの中で先の見えない期間が長く続きました。

自粛期間中はそれぞれの自宅で個人練習を行い、先生方に練習動画を送りアドバイスを頂くなど、立ち止まらずに前を向いて練習を続けました。

また日頃から私たちの演奏を聴いて下さる沢山の方々に元気や感動を届けられるよう、リモートアンサンブルで様々な曲の演奏にも挑戦しました。長い自粛期間を乗り越え、久しぶりに部活の仲間と再会し合奏など大人数での練習は出来ませんでしたがありますがありがたいことにいくつかの本番の機会を頂きました。その中に今回の東関東優秀団体演奏会のお話もあり、お客様のいるホールで演奏できる機会を頂くことができ本当に嬉しい気持ちでいっぱいでした。

当日を迎えるまでに3年生で何度もミーティングを行い、コンクールは中止になってしまったけど、この演奏会は全日本コンクールと同じ気持ちで挑もうと決めました。なかなか部員全員が同じモチベーションを保つことが難しく、苦勞する場面も多くありましたが、これまで支えてくださった皆様へ感謝の気持ちを込めて演奏しようと、心を一つにすることができました。また、演奏後は運営補助員もやらせて頂き、例年全日本コンクールに出場している学校の演奏はもちろん、本番直前の姿も見ることができ貴重な1日となりました。

このような大きなステージに立つことが出来るのは、ご指導して下さる先生方、支えて下さる保護者、応援して下さい下さる方々がいらっしゃるおかげであり、今まで当たり前のように過ごしている日々は当たり前ではなく奇跡であると、自粛期間を経て身にしみて感じる事が出来ました。

今回の経験を活かし、これからの本番ひとつひとつに全力で取り組み、私達の演奏を楽しみにして下さい下さる方々への感謝の気持ちを忘れず、沢山の方の心に残る活動をしていきたいと思っています。

「感謝、絆、繋ぐ想い」

作新学院高等学校吹奏楽部 トレーナー 3年 丸山 加奈未

3月から休校が続き、私達は部員のモチベーションを保とうと『おうち部活』を実行しました。個々の毎日の練習内容をノートに記入し動画に課題を撮影、それらを先生方に送信しアドバイスを貰うスタイルを約2か月間続けました。また自宅にいても部員全員で何か取り組みたいとサザンオールスターズの「みんなのうた」や幾つかの楽曲でリモート演奏に挑戦しました。映像の編集は部員で行い、私達なりの小さな目標を掲げることで達成感があったものの、早く会いたい、皆の音に触れて演奏がしたいという思いは日々大きくなるばかりでした。5月にはコンクールの中止が決まり、目標であった全国大会出場の夢は絶たれてしまいました。落ち込み、先の見えない不安に押し潰されそうになりましたが、作新にしかできない思い出に残る年にしようと考え、歩み始めました。

様々な制限がある中、8月には学校や保護者の皆様のご理解のおかげで約半年ぶりに舞台に立ちました。9月には茨城県でのフレンドシップコンサートに続き、東関東優秀団体演奏会での演奏機会を頂く事が出来ました。私達の知らないところで沢山の方々々が尽力し、開催して下さったことに感動し、どの本番でも自然と感謝の思いが心の底から込み上げてきて胸がいっぱいになりました。

東関東優秀団体演奏会ではコンクールで演奏するはずだった吹奏楽のための「エール・マーチ」も取り上げました。「いつもと変わらない日々が大切な事」「待ち焦がれていたあの場所で僕らは夢を語る」という休校期間中に皆でつけたオリジナルの歌詞を楽譜に貼り、一つ一つの音に思いを重ね演奏する事が出来ました。

私達の活動に携わる全ての人との絆、コロナの年だったからこそ感じることでできた温かさ。沢山の方々への感謝の気持ちを演奏や日々の活動で恩返しできるよう、残り少ない時間を最高の仲間達と切磋琢磨しながら最後まで楽しみたいと思います。そして私達3年生の思いや夢は後輩達に託し、未来に繋げていきたいと思います。

「諦めないことの大切さを感じた東関東優秀団体演奏会」

作新学院高等学校吹奏楽部 チーフ顧問 三橋 英之

本来なら東京オリンピック2020の熱狂が日本中を包み込んでいたはずですが。コロナ禍の影響は想像を絶し、様々なイベントが開催できなくなりました。私たちの吹奏楽部も例外ではありませんでした。コンクールの中止が発表された時の最上級生たちの落胆ぶりにかける言葉が見つかりませんでした。

学校が休校になり、部活動もできなくなりました。しかし、立ち止まってはられません。様々な催しが実施可能になった時にすぐに演奏できるように何かできることはないかを考えました。

また、同じ苦しい思いをした全国の吹奏楽の仲間元気がでるようなメッセージを送り続けられないかと考えました。幸いにも優秀な二人のコーチ（大貫茜・田村優弥）が部員たちに課題を出し、コーチにその出来映えを動画で送り返し、さらにコーチがそれにアドバイスを与えるというスタイルで活動を継続しました。ほぼ全員が楽器を各家庭に持ち帰り、自宅で練習できない生徒は河川敷や公園で練習を続けました。その成果がリモート演奏へと結実し、吹奏楽部の公式FacebookなどSNSにアップしたところ、大きな反響がありました。毎日新聞全国版・NHK（関東甲信越）・フジテレビ・とちぎテレビなどに活動の様子が紹介されました。何とか今シーズンもコンクールに臨める演奏が完成しつつあります。諦めないことの大切さを改めて思い知らされました。

当日のコンサートでは5つの団体が各高校の個性を感じる素晴らしい演奏が続きました。コロナに屈することなく、コロナ対策を万全にとり、活動に日夜工夫しながら、懸命に取り組んできたことを十分に感じる事ができました。

早々に最上級生が引退した学校も多かったと聞きます。ある意味それもまた、それぞれの学校の事情があるので、やむを得ない判断だったと思います。しかし、最上級生たちにとっては、最後のシーズンです。苦悩しながらも



何とか継続できないかと頑張ったことが、実りある1年にすることができたのではないかと感じています。この演奏会を開催するにあたってご協力いただいた全ての方々に感謝申し上げます。

4 地域・地区の行事、団体独自の活動を通しての感想

「昼休み サプライズ・ライブ」

那須塩原市立黒磯中学校吹奏楽部 部長 遠藤 優菜

私たち黒磯中学校吹奏楽部は、「聴いてくださる人々が感動する音楽を創り上げること、届けること」を目標に、日々活動しています。今年は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で吹奏楽コンクールが中止になってしまったり、毎年実施していた地域での演奏ができなくなってしまったりと、思うような活動ができませんでした。いつも私たちの活動を応援し、支えてくださる地域の皆様や保護者の方々に音楽を届けることができず、人前での演奏ができなくなってしまいました。

そこで、『昼休み サプライズ・ライブ』を実行しました。これは、平日の昼休みに各パートでのアンサンブルを校内の廊下で披露するというものです。新型コロナウイルス感染症対策で活動が制限されたため、パート練習の時間を多く設定しました。パート練習をたくさんしたからこそ、パートの仲間で協力し、アンサンブルを完成させることができました。ライブ当日は友達や先生方が足を止めてくださり、私たちの音楽を届けることができました。そして、「とても上手だったね!」「綺麗な音色だったね!」と、たくさんの嬉しいお言葉をいただきました。人前での演奏は緊張しましたが、私たち自身も演奏を楽しむことができました。

私はこのライブを実行して、今まで制限なく思う存分音楽をしてきた日々がどれだけ幸せだったのかを強く感じました。昨年までの「好きなときに」「好きなだけ」楽器を触れた日々、友達と練習できた日々、大会やイベントでも演奏できた日々、普通だと思っていた日々が普通ではなかったのかもしれないと感じました。

10月末には文化祭があり、吹奏楽部は演奏する機会をいただきました。3年生にとっては、大切なメンバーとの最後の演奏です。人前で演奏する多くの機会がなくなり、悔しかったり、心残りがあったり…このような気持ちもありますが、今年度全員で演奏できる最初で最後のステージです。このステージに思いを込めて最高の音楽を届けたいと思います。



芳賀地区中学校吹奏楽フェスティバルに参加しての感想

令和2年10月3日(土) 会場：井頭公園内サッカー場

「今だからこそできる演奏を」

真岡市立物部中学校吹奏楽部 部長 安齋 紡

新型コロナウイルス感染症の影響により、学校や部活動がなくなってしまったり、練習が再開しても各大会が中止になったりと、何を目標として、何に向かって練習したらいいか分からない時期がありました。私たち3年生にとっては、中学校最後の大会に出られずに引退することが、とても悔しかったです。だから、「芳賀地区中学校吹奏楽フェスティバル」に参加することを聞いたときは、



とても嬉しかったです。部員の笑顔や明るい音も取り戻せたように感じました。

フェスティバルの会場は、井頭公園の広いサッカー場です。屋内で演奏する機会が多い私たちは、常に「屋外で演奏する」という意識を持ちながらの練習が大変でした。音を遠くに飛ばすこと、全員でまとまった音楽を作ることに重点を置いて練習しました。テンポや曲の雰囲気が変わりやすいメドレーを選んだため、その曲に合うように吹き方などを変えることにも苦労しました。今年は、各大会が中止になってしまったので、このフェスティバルに参加できて本当に良かったです。コンクールなどの大会のように堅い雰囲気ではなく、他校の演奏も知っている曲が多かったので、手拍子を楽しみながら楽しむことができました。私たちの曲では、3年生一人一人にソロがあり、演奏が始まる前は、みんなもとても緊張していたと思います。ソロの部分や私たちの演奏が終わった時の会場の皆さんからの拍手でホッとしました。また、達成感もありました。この日のために毎日練習して本番を迎えられ、失敗することなく無事に終われたことが本当に嬉しかったです。

私たちのためにこのフェスティバルを計画してくださった方々や、見に来てくれた友人や家族、指導をしてくださった先生方、私たちを応援してくれたすべての方々に感謝したいです。ありがとうございました。

「コロナだからこそできた経験」

益子町立田野中学校吹奏楽部 顧問 小森 達彰

本校吹奏楽部は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で3月の定期演奏会が中止となり、昨年度の3年生は、中学校生活の集大成の演奏会ができないまま巣立っていきました。

6月の授業再開後は、屋上や廊下へと練習場所を移し、7月からは音楽室での活動ができるようになりましたが、例年あるはずの演奏機会はすべて失われてしまいました。

そんな中、10月3日に開催された「芳賀地区吹奏楽フェスティバル」は、1年生にとっては初めて、2・3年生にとっては約10か月ぶりの、待ち望んでいた本番のステージでした。与えられた10分という短い時間で「やりたい曲をできるだけたくさん演奏しよう」という生徒の声で、コンクール曲の抜粹に加え、ポップスを中心とした7曲をメドレーにして練習を重ねてきました。

このフェスティバルは、感染拡大防止のため、井頭公園にある広大な運動広場で開催されました。心配された天気も、願いが通じたのか雲一つない晴天で、どの中学校もお客さんの前で演奏できるという喜びを、音で、表情で、体で表現していました。観客も、芝生に敷いたシートに座り、リラックスして聴いてくれました。ホールでの演奏会とはまた違い、会場全体が和やかな雰囲気に包まれながらプログラムが進行していきました。本校の演奏も、練習してきたものをすべて出し切ることができました。終わった後の子供たちの表情は、この日の青空に吸い込まれそうなくらい晴れやかで爽やかな、実に充実感に満ちたものでした。

フェスティバルの最後は、参加14校の全部員が輪になって合同演奏を行いました。四方八方から聴こえてくる思いのこもった音、それはまさに芳賀地区の約500名の吹奏楽部員の気持ちが一つになった瞬間で、涙があふれそうになりました。

今回の演奏会で、子どもたちが純粋に楽器演奏を楽しむ姿、手拍子しながら笑顔で演奏を聴く姿は、私たちに音楽の原点を思い出させてくれました。演奏技術の向上やコンクールの結果も大切ですが、今回の「コロナだからこそできた経験」を記憶にとどめ、生涯を通して音楽が好きで、音楽とともに歩みを進めていく子どもたちを育てていけたらと思います。



栃木県吹奏楽連盟広報部 沼尾 和子

新型コロナウイルス感染症

前代未聞の事態に、今まで当たり前だった日常が大きく変化しています。

各団体においては感染防止のため、あらゆる面で大変なご苦労があると思います。そのような中で、少しずつ活動が再開されてきていることは、喜ばしいことです。これ大丈夫か?と常に自問自答しながらの毎日は大変ですが、吹奏楽を愛好する者同士、お互いに知恵を出し合い情報交換を密にして(3密は避けましょう)この事態を乗り越えましょう。とは言っても、自分たちが活動する際の感染リスクは常に気になります。現在まで医療関係や楽器メーカー、演奏団体、スーパーコンピューター富岳などによって、リスクに関する実験や検証が行われています。油断は禁物なのは言うまでもありませんが、きちんとした情報を得て正しく恐れることが大切です。県連盟のホームページに、対策を講じた活動例や実証実験の膨大な資料が掲載されていますので、ぜひご一読ください。一部を紹介します。

コロナ下の音楽文化を前に進めるプロジェクト

- ・スクールバンドを中心とした吹奏楽活動における感染対策

学校における実践の様子

- ・学校吹奏楽における一考察(栃木県吹奏楽連盟事務局長 星 弘敏)

吹奏楽実施の際に参考になるホームページ

- ・東京都響の試み
- ・YAMAHAのアドバイス
- ・管楽器・教育楽器の飛沫可視化実験(YAMAHA)

CRT 栃木放送・県吹連の企画として

- ・コンクール風に録音した「アナウンス音声」プレゼント
- ・ラジオ番組での放送「クラシックガーデン」「歌のない歌謡曲」

いずれも申し込み受付中です。申込用紙等の詳細は県吹連ホームページに掲載。

ジャンル・人数不問です。思い出作りの一環として応募してみませんか。

このような状況下で原稿をお寄せくださった方々に深く感謝いたします。ありがとうございました。当たり前の日常になるには、まだ時間がかかりそうですが、一日を大切に前を向いて進んで行きましょう。

《お願い》 各地区や団体の活動について、情報をお待ちしています。また、それぞれの立場や場面での要望・意見・感想なども、気軽にお寄せください。

なお、原稿の依頼がありましたら、お忙しいとは思いますが是非お書きいただき、期限内にお送りくださいますようお願いいたします。